

優良苗

マンジヨ力栽培

輸出向に乾燥法を採用

憲政復歸の爲め生命を賭して起業の度特に農産課を新設して州農牧の獎勵を計りつゝあるが、同課では其の手始めに州内一般の農業者にマンジヨカの栽培獎勵を開始した。マンジヨカは是れまでも農家は栽培して自家食用に供し、至つて栽培は容易く且つ使用途の多い農業は珈琲とか棉とか米とかと食し、滋養分に富めるものである。又粉となつてはボルビリオの栽培を獎勵すると共に、加工に就いても大工場設置を計畫する事になる云ふことである。マンジヨカを工業用に用ひるには、マンジヨカを薄く煎餅の如き切り之を日光又は火熱で乾燥し遠隔の地へ送出すもので、佛國の如きは年々莫大な此の乾燥品をジャッ島、シンガポア方面から輸入して居るが、元來此の乾燥マンジヨカは只水分を蒸発し、伯國に於ても此の需要に適する物を製出する事が必要である。

故に農家に於ては農産課の指導を受けるのみならず、将來倍々盛んになるのである。

澱粉から出来るタピオカはスープにもブレイングにも用ひられる。廣く世界に販路を有つ。又マンジヨカの澱粉からは上等のグルコーズ(葡萄糖)が得られるし、はならない、それは充分根が成る。

農業課を新設して州農牧の獎勵を計りつゝあるが、同課では其の手始めに州内一般の農業者にマンジヨカの栽培獎勵を開始した。

マンジヨカは是れまでも農家は栽培して自家食用に供し、至つて栽培は容易く且つ使用途の多い農業は珈琲とか棉とか米とかと食し、滋養分に富めるものである。又粉となつてはボルビリオの栽培を獎勵すると共に、加工に就いても大工場設置を計畫する事になる云ふことである。マンジヨカを工業用に用ひるには、マンジヨカを薄く煎餅の如き切り之を日光又は火熱で乾燥し遠隔の地へ送出すもので、佛國の如きは年々莫大な此の乾燥品をジャッ島、シンガポア方面から輸入して居るが、元來此の乾燥マンジヨカは只水分を蒸発せしめたもので、全部の澱粉や成分が含有されてゐるから、工業原料としてマンジヨカ粉に比し、歐洲工場からの需要が多い譯である。

故に農家に於ては農産課の指導を受けるのみならず、將來倍々盛んになるのである。

澱粉から出来るタピオカはス

ープにもブレイングにも用ひられる。

廣く世界に販路を有つ。又マンジヨカの澱粉からは上等のグル

コーズ(葡萄糖)が得られるし、はならない、それは充分根が成る。

農業欄

栽培注意事項

(つづき)

一、軟粒種にして多収穫のもの

二、硬粒種の良種

三、短期間成熟種

四、カーネーション

五、アマレロン(黄色種)

六、サンタローラ

七、アムバーロ

八、バーリンニヤ

九、マリヨ

十、シナモン

十一、ラベンダー

十二、ヒマラヤ

十三、ヒマラヤ

十四、ヒマラヤ

十五、ヒマラヤ

十六、ヒマラヤ

十七、ヒマラヤ

十八、ヒマラヤ

十九、ヒマラヤ

二十、ヒマラヤ

二十一、ヒマラヤ

二十二、ヒマラヤ

二十三、ヒマラヤ

二十四、ヒマラヤ

二十五、ヒマラヤ

二十六、ヒマラヤ

二十七、ヒマラヤ

二十八、ヒマラヤ

二十九、ヒマラヤ

三十、ヒマラヤ

三十一、ヒマラヤ

三十二、ヒマラヤ

三十三、ヒマラヤ

三十四、ヒマラヤ

三十五、ヒマラヤ

三十六、ヒマラヤ

三十七、ヒマラヤ

三十八、ヒマラヤ

三十九、ヒマラヤ

四十、ヒマラヤ

四十一、ヒマラヤ

四十二、ヒマラヤ

四十三、ヒマラヤ

四十四、ヒマラヤ

四十五、ヒマラヤ

四十六、ヒマラヤ

四十七、ヒマラヤ

四十八、ヒマラヤ

四十九、ヒマラヤ

五十、ヒマラヤ

五十一、ヒマラヤ

五十二、ヒマラヤ

五十三、ヒマラヤ

五十四、ヒマラヤ

五十五、ヒマラヤ

五十六、ヒマラヤ

五十七、ヒマラヤ

五十八、ヒマラヤ

五十九、ヒマラヤ

六十、ヒマラヤ

Poticias do Brasil

22 DE SETEMBRO DE 1932 No. 822

日曜木 號二十二百八第一 日二廿月九七和昭

故村録 論



第二十六回

「もし、もし、失禮ながら、あ
の、あなた」

奴だ。

とあけて「はあ成程、やられま
したなう盗人に」と合點を二つ
した。

「ご覽の如く盗人に見舞はれま
したはよゝゝ、や、貴僧の

手である大小は」

さつと變つた勝馬の顔色を、旅
僧は眼をくりくさせ、ちつ

と眺め入つた。

「いや愚僧でない餘人ぢや、愚
僧はその人の依頼によつて直届
けに參つたゞけぢや」

「ほ、や、や、忘れてゐた、その
方は、それ、肉づきの豊さ、いは
ゆる「でのある體」といふ年の
頃三十三四、いや七八か、それ
とも若づくりをしてゐるから全
くは四十女か。

「あ奴……」

「嘉藤段四郎といふさうな、あ
な女を、何と見てか愛想氣微塵
「あの只今仰せになりました、
嘉藤」

女がかういつたのに旅僧は、外
の事をいつてゐた。

「郡さんはこゝかなう」と。
「へい」と番頭は答へるべき筈
の立場にしながら知らん振りを
おはりりなされ」と、蒲團の上
へ徐に起き直つた。

「さうです、勝馬はぞります
が免る愚僧でござる」がらり
せう、何しろまだ死活二相が出

むつてする女臭さは、男そ
りの油の香ばかりではなかつた
へ、廊下の板にたてる姿も、女
のさすが優しく、そればかりか
追ひかけて問はれゝば、振

「いや愚僧でない餘人ぢや、愚
僧はその人の依頼によつて直届
けに參つたゞけぢや」

「ほ、や、や、忘れてゐた、その
方、それ、肉づきの豊さ、いは
ゆる「でのある體」といふ年の
頃三十三四、いや七八か、それ
とも若づくりをしてゐるから全
くは四十女か。

「あ奴……」

「嘉藤段四郎といふさうな、あ
な女を、何と見てか愛想氣微塵
「あの只今仰せになりました、
嘉藤」

女がかういつたのに旅僧は、外
の事をいつてゐた。

「郡さんはこゝかなう」と。
「へい」と番頭は答へるべき筈
の立場にしながら知らん振りを
おはりりなされ」と、蒲團の上
へ徐に起き直つた。

「さうです、勝馬はぞります
が免る愚僧でござる」がらり
せう、何しろまだ死活二相が出

むつてする女臭さは、男そ
りの油の香ばかりではなかつた
へ、廊下の板にたてる姿も、女
のさすが優しく、そればかりか
追ひかけて問はれゝば、振

「いや愚僧でない餘人ぢや、愚
僧はその人の依頼によつて直届
けに參つたゞけぢや」

「ほ、や、や、忘れてゐた、その
方、それ、肉づきの豊さ、いは
ゆる「でのある體」といふ年の
頃三十三四、いや七八か、それ
とも若づくりをしてゐるから全
くは四十女か。

「あ奴……」

「嘉藤段四郎といふさうな、あ
な女を、何と見てか愛想氣微塵
「あの只今仰せになりました、
嘉藤」

女がかういつたのに旅僧は、外
の事をいつてゐた。

「郡さんはこゝかなう」と。
「へい」と番頭は答へるべき筈
の立場にしながら知らん振りを
おはりりなされ」と、蒲團の上
へ徐に起き直つた。

「さうです、勝馬はぞります
が免る愚僧でござる」がらり
せう、何しろまだ死活二相が出

むつてする女臭さは、男そ
りの油の香ばかりではなかつた
へ、廊下の板にたてる姿も、女
のさすが優しく、そればかりか
追ひかけて問はれゝば、振

「いや愚僧でない餘人ぢや、愚
僧はその人の依頼によつて直届
けに參つたゞけぢや」

「ほ、や、や、忘れてゐた、その
方、それ、肉づきの豊さ、いは
ゆる「でのある體」といふ年の
頃三十三四、いや七八か、それ
とも若づくりをしてゐるから全
くは四十女か。

「あ奴……」

「嘉藤段四郎といふさうな、あ
な女を、何と見てか愛想氣微塵
「あの只今仰せになりました、
嘉藤」

女がかういつたのに旅僧は、外
の事をいつてゐた。

「郡さんはこゝかなう」と。
「へい」と番頭は答へるべき筈
の立場にながら知らん振りを
おはりりなされ」と、蒲團の上
へ徐に起き直つた。

「さうです、勝馬はぞります
が免る愚僧でござる」がらり
せう、何しろまだ死活二相が出

てゐるからなう」旅僧はそこを出で先刻の女は、
と、そこらを見廻すと、女は番
頭を見下し加減に廊下の隅にま
だ立つてゐた。『やあそこにか、先刻何か申さ
れたが』

家庭 ◇暑い夏休みは少年少女
達には却つて心神の健康
を自由に伸び／＼と發育
させる貴重な時です
◇殊に小學校の上級から女學校
流行

の特輯がありますが、あれなど
ソツクリそのまま利用が出来て
います。この間は、旅僧によつて
の二三年頃の發育盛りの子女を
持つ家庭では、平常どちらかと
いへば學校で過す時間の多い彼
女の達の生活を再吟味して、親達
の希望に副ふ様、充分の情操教
育に心を用ひたいのです
◇それにはどうしても少女達の
趣味を高雅に保たねばなりません
する

の御送金の伯爵は當店にて受取りたる
書類にて御相場にて日本金に換算可
能

の御送金の伯爵は當店にて受取りたる
書類にて御相場にて日本金に換算可
能</